

# 美学・西洋美術史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
美学・西洋美術史概論	アートの誕生現場：14世紀から現代まで	2	足達 薫	3	火曜5限
美学・西洋美術史概論	西洋美学入門	2	MARINUCCI LORENZO	3	水曜2限
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史の基本文献の読解法	2	足達 薫	3	木曜2限
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史の基本文献の読解法	2	足達 薫	4	木曜2限
美学・西洋美術史各論	美術が猥褻だった頃：16世紀イタリアのエロティック美術	2	足達 薫	5	月曜4限
美学・西洋美術史各論	美と魔、2つの「術」の同調現象：16世紀イタリアの奇妙な美術	2	足達 薫	6	月曜4限
美学・西洋美術史各論	西洋美学の諸問題	2	MARINUCCI LORENZO	6	水曜2限
美学・西洋美術史演習	西洋美学文献購読	2	MARINUCCI LORENZO	5	木曜5限
美学・西洋美術史演習	西洋美術研究（基本編）	2	足達 薫	5	金曜4限
美学・西洋美術史演習	西洋美術研究（発展編）	2	足達 薫	6	金曜4限
美学・西洋美術史実習	美術作品分析入門：構図から細部までをいかに観察し記述するか	2	足達 薫	5	火曜3限 火曜4限
美学・西洋美術史実習	「空想の展覧会」の企画およびカタログ作成	2	足達 薫	6	火曜3限 火曜4限

**科目名：美学・西洋美術史概論**

**曜日・講時：**火曜 5 限

**セメスター：**3 **単位数：**2.00 単位

**担当教員：**足達 薫

**コード：**LB32501, **科目ナンバリング：**LHM-ART202J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**アートの誕生現場：14 世紀から現代まで

**2・授業の目的と概要：**中世末期から現代にかけての絵画および彫刻の発展過程を理解するためには、「アーティスト」および「アート」という概念の形成過程を理解することが必要不可欠です。この授業では、信仰や崇拝の対象として制作されていた絵画や彫刻が、いかにして現代の私たちが知るアートへと「変容」していったかを、特に重要な役割を果たした作品および事例の分析を通じて概観します。

**3. 学習の到達目標：**アーティストおよびアートという概念の形成過程を具体的な作品および作家を通じて理解する。美術作品の視覚的分析のための具体的な観点および手順（特にイコノグラフィー、様式と形式）を理解する。14 世紀から現代までの重要な美術作品を理解する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1: アートとは コミック作品『 QED 』『ファイハの画集』を起点として
  - 2: アートワールド
  - 3: イコノグラフィー 1) 美術作品を分析する方法
  - 4: イコノグラフィー 2) 「時代の目」
  - 5: 形式と様式
  - 6: 署名と自画像
  - 7: アーティスト誕生の瞬間 1
  - 8: アーティスト誕生の瞬間 2
  - 9: 炎上するアーティストたち
  - 10: 美術アカデミーの誕生
  - 11: 「本物そっくり」とは何か
  - 12: 印象主義から ファン・ゴッホへ
  - 13: 写真術とピカソ
  - 14: アートの勝利
  - 15: アートの昨日と近未来
- (註：資料作成の過程で発見した内容に基づいて変更することがあります)

**5. 成績評価方法：**毎回の授業でのコメントアンケート（方式は考え中。授業で示します）および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。

**6. 教科書および参考書：**授業で指示します。

**7. 授業時間外学習：**配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
該当しない

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史概論**

**曜日・講時：**水曜 2 限

**セメスター：**3 **単位数：**2.00 単位

**担当教員：**MARINUCCI LORENZO

**コード：**LB33202, **科目ナンバリング：**LHM-ART202J, **使用言語：**日本語（英語の指導も可能）

**1. 授業題目：**西洋美学史

**2・授業の目的と概要：**古代ギリシャの芸術論からカントやヘーゲルの哲学における美の理想まで、授業がヨーロッパ美学史の主な時期、著者、問題へ招待します。

**3. 学習の到達目標：**学修の到達目標：授業の目的は西洋美学の根本的な問題や概念を紹介し、生徒たちがそれらを自分の研究にも適用するように指導することである。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業の主な資料はスライドである。授業の後、Classroom にアップロードされる。

- 1 美学というのは・授業入門
- 2 美学概論 美の色々な逆説
- 3 西洋美学の始まり・プラトンの形相論
- 4 西洋美学の始まり・プラトンと詩人の追放
- 5 西洋美学の歴史・アリストテレスの悲劇論
- 6 キリスト教と美の体験
- 7 キリスト教における美に関する考察：聖アウグスティヌス
- 8 キリスト教における美に関する考察：聖トマス
- 9 ルネサンス：美の革新
- 10 考えるアーティスト：アルベルティ、レオナルド、デューラー
- 11 近代の問題と「美学」の誕生
- 12 ヒュームの趣味論
- 13 カントの「判断力批判」 1
- 14 カントの「判断力批判」 2
- 15 試験

**5. 成績評価方法：**期末テスト(持ち込みなし)

**6. 教科書および参考書：**スライド（日本語）

**7. 授業時間外学習：**無

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

無

**9. その他：**

無

科目名：美学・西洋美術史基礎講読

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：足達 薫

コード：LB34204, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語および英語、その他の西洋言語

1. 授業題目：西洋美術史の基礎的概念および用語の理解—具体的なテキストの読解を通じて

2・授業の目的と概要：西洋美術史をめぐる主に英語で書かれたテキストを読解しながら、重要な基礎的概念および用語の意味および展開を理解し、美術作品を分析的に研究するための基本的観点を習得する。

3. 学習の到達目標：主に英語で書かれたテキストを読解しながら、西洋地域の美術史を理解するための基礎的概念および用語に注目し、それらの語源およびそののちの時代における展開を理解する。加えて、理解した内容を、正確で論理的な日本語で表現する能力を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論：この授業で身につけたいことは何か
2. 読解および発表の形式、準備の方法
3. 予行演習的読解
4. 読解と発表
5. 読解と発表
6. 読解と発表
7. 読解と発表
8. 読解と発表
9. 読解と発表
10. 読解と発表
11. 読解と発表
12. 読解と発表
13. 読解と発表
14. 読解と発表
15. 読解と発表

5. 成績評価方法：出席、担当箇所についての発表（準備度、努力度）を総合して評価する。

6. 教科書および参考書：初回（または第2回）にテキストを配布する（またはダウンロード先を指示する）。

7. 授業時間外学習：担当箇所を読解し、指示された形式に従って発表の準備を行う。パソコンでの資料作成およびパワーポイントスライドの作成が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

該当する

9. その他：

**科目名：美学・西洋美術史基礎講読**

**曜日・講時：**木曜 2 限

**セメスター：**4 **単位数：**2.00 単位

**担当教員：**足達 薫

**コード：**LB44204, **科目ナンバリング：**LHM-ART206J, **使用言語：**日本語および英語、その他の西洋言語

**1. 授業題目：**西洋美術史の基礎的概念および用語の理解—具体的なテキストの読解を通じて

**2・授業の目的と概要：**西洋美術史をめぐる主に英語で書かれたテキストを読解しながら、重要な基礎的概念および用語の意味および展開を理解し、美術作品を分析的に研究するための基本的観点を習得する。

**3. 学習の到達目標：**主に英語で書かれたテキストを読解しながら、西洋地域の美術史を理解するための基礎的概念および用語に注目し、それらの語源およびそののちの時代における展開を理解する。加えて、理解した内容を、正確で論理的な日本語で表現する能力を習得する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 前期に学んだ概念および用語の振り返り
2. 読解と発表
3. 読解と発表
4. 読解と発表
5. 読解と発表
6. 読解と発表
7. 読解と発表
8. 読解と発表
9. 読解と発表
10. 読解と発表
11. 読解と発表
12. 読解と発表
13. 読解と発表
14. 読解と発表
15. 読解と発表

**5. 成績評価方法：**出席、担当箇所についての発表（準備度、努力度）を総合して評価する。

**6. 教科書および参考書：**初回（または第2回）にテキストを配布する（またはダウンロード先を指示する）。

**7. 授業時間外学習：**担当箇所を読解し、指示された形式に従って発表の準備を行う。パソコンでの資料作成およびパワーポイントスライドの作成が必要です。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
該当する

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史各論**

**曜日・講時：**月曜 4 限

**セメスター：**5 **単位数：**2.00 単位

**担当教員：**足達 薫

**コード：**LB51402, **科目ナンバリング：**LHM-ART302J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**美術が猥褻だった頃：16 世紀イタリアのエロティック美術

**2・授業の目的と概要：**近年、イタリア・ルネサンス美術の研究では、同時代の「エロティック革命」（性愛やそれが産み出すユーモアを肯定的に捉える新しい文化的意識）との関連性が注目され、多くの新しい発見がなされています。この授業では、美術と身体的愛が強く結びついた興味深い事例を分析しながら、イタリア・ルネサンスに関する新しい観点と研究方法を学びます。

**3. 学習の到達目標：**(1) イタリア・ルネサンス美術を「エロティック革命」として捉える新しい研究動向を理解すること。(2) 身体的愛に関連する絵画や彫刻を視覚的に分析するための観点および方法を習得すること。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

資料作成の過程で内容および順番を変更することがあります。また、性行為や性的部位を露骨に表す描写や作品はしばしば差別的であり、不快感を与える可能性があること（授業では可能な限り中立的で客観的に解説します）を理解したうえで受講してください。

1. プロローグ：チェッリーニ『自伝』における美術と愛
2. 展覧会「ルネサンス期イタリアにおける美術と愛」（2008）の意味
3. 古代彫刻の魅惑と魔力
4. オウィディウス『変身物語』とイタリア・ルネサンス
5. 聖愛と俗愛のパラドックス
6. 生活空間（1）：恋人たちの寝室
7. 生活空間（2）；書斎
8. 生活空間（3）浴室
9. 生活空間（3）出産
10. 愛のメディアとしての肖像画
11. 男根礼賛
12. 同性愛のイメージ
13. キリストのセクシュアリティ
14. ボルノグラフィーの誕生
15. エピローグ：再びチェッリーニ『自伝』へ

**5. 成績評価方法：**毎回の授業でのコメントアンケート（方式は考え中。授業で示します）および全体を通じた最終ミニレポートを総合して評価します。

**6. 教科書および参考書：**授業で指示します。

**7. 授業時間外学習：**配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
該当しない

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史各論**

**曜日・講時：**月曜 4 限

**セメスター：**6 **単位数：**2.00 単位

**担当教員：**足達 薫

**コード：**LB61402, **科目ナンバリング：**LHM-ART302J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**美と魔、2つの「術」の同調現象：16世紀イタリアの奇妙な美術

**2・授業の目的と概要：**現代の美術や写真において、現実と虚構、自然と技術のあいだの境界線を揺らがせるような作品をしばしば「魔術的」と呼ぶことがあります。しかし、美術と魔術の相関関係はすでに古代において発見されていたものであり、初期近代にかけて美術と魔術（そして科学）は、自然を操作する人為的技芸として本質的レベルで交錯しながら発展しました。この授業では、特にイタリア・ルネサンスの時代の美術に注目して、美術と魔術の共鳴現象を具体的な作品や作家の事例の分析を通じて、現代では忘れられがちな美術の一側面を解説します。

**3. 学習の到達目標：**美術作品および作家を歴史的文脈と照らし合わせて分析する問いの立て方および分析の手順を理解する。古代から初期近代のイタリアにおける美術の展開について理解を深める。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1：プロローグ——生きている彫像？
- 2：美術と魔術の共鳴現象——古代からルネサンスへ
- 3：同時代の言説における美術と魔術
- 4：イメージ魔術と肖像画（1）
- 5：イメージ魔術と肖像画（2）
- 6：絵画と暗号（1）
- 7：絵画と暗号（2）
- 8：怪物の創造（1）
- 9：怪物の創造（2）
- 10：絵画と記憶術（1）
- 11：絵画と記憶術（2）
- 12：絵画と鏡魔術（1）
- 13：絵画と鏡魔術（2）
- 14：絵画と呪い
- 15：エピローグ——絵画と錬金術

（註1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります）

（註2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください）

**5. 成績評価方法：**毎回の授業でのコメントアンケート（方式は考え中。授業で示します）および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。

**6. 教科書および参考書：**授業で指示します。

**7. 授業時間外学習：**配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

該当しない

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史各論**

**曜日・講時：**水曜 2 限

**セメスター：**6 **単位数：**2.00 単位

**担当教員：**MARINUCCI LORENZO

**コード：**LB63204, **科目ナンバリング：**LHM-ART302J, **使用言語：**日本語 (英語可)

**1. 授業題目：**風・火・水・土：四元素論と美学

**2・授業の目的と概要：**風・火・水・土。古代ギリシャの思想や医学論、中世の宗教、錬金術、占星術、近代の化学の誕生にさえ、四元素の思想は非常に広い影響あたえました。近代の科学的革命の後で迷信とみなされてほとんど捨てられた概念ですが、ヨーロッパの美術史を理解するのに不可欠な知識だけではなく、美学的な現象としても火風水土がそれぞれの物質的な暗示、揺動、感情的なニュアンスを感じさせるもの。特に 1940 年代に G. Bachelard が「元素の精神分析」、「物質の現象学」の試みを通して、四元素の美的な・知覚的な・認識的な価値にかんして論じた。授業では歴史的・美的な問題としてアプローチされる。

**3. 学習の到達目標：**西洋思想史と西洋美術史における四元素論を探検して、Bachelard や Jung の知覚論・美学論の徹底的な理解を得ること。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 元素とはなんでしょうか。物質と美
- 2 古代ギリシャにおける四元素 プラトンとアリストテレス
- 3 古代の四元素 ヒッポクラテスの身体論・気質論
- 4 中世の四元素論
- 5 錬金術とアート
- 6 ユングの錬金術論 1
- 7 ユングの錬金術論 2
- 8 近代と物質論・フッサールの解釈
- 9 G. Bachelard と物質的な空想論
- 10 Bachelard の『火の精神分析』 1
- 11 Bachelard の『火の精神分析』 2
- 12 Bachelard の『水と夢—物質の想像力についての試論』
- 13 Bachelard の『水と夢—物質の想像力についての試論』 2
- 14 Bachelard の『空と夢—運動の想像力にかんする試論』
- 15 Bachelard の『空と夢—運動の想像力にかんする試論』 2
- 16 Bachelard の『「地」の想像力』

**5. 成績評価方法：**レポート (短い美学的な・美術していい論文)

**6. 教科書および参考書：**参考書

G. Bachelard

『火の精神分析』

『水と夢—物質の想像力についての試論』

『空と夢—運動の想像力にかんする試論』

『「地」の想像力』

(一冊を選んで、完全に読むこと)

**7. 授業時間外学習：**無

**8. 実務・実践的授業/Practical business**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

無

**9. その他：**

無



**科目名：美学・西洋美術史演習**

**曜日・講時：**木曜 5 限

**セメスター：**5 **単位数：**2.00 単位

**担当教員：**MARINUCCI LORENZO

**コード：**LB54501, **科目ナンバリング：**LHM-ART306J, **使用言語：**日本語 (英語可)

**1. 授業題目：**カワイイの美学

**2・授業の目的と概要：**カワイイという言葉は日常的に使われているのに、カワイイという現象を正確的に分析するのが意外にむずかしといえる。カワイイというのが日本由来なのに、わび・さびのような伝統的な日本美学的な範疇より世界中に流行して、間文化的な現象としても興味深い。西洋美術史における「美」と「崇高」の概念とことなり、カワイイは「小」「甘」「子供らしさ」の経験に焦点をあたえる美的な概念である。さらに、ジェンダー、ポップカルチャー、消費社会とのふかい関わりがある。カワイイ論によって、現代美学、大衆社会における美的な問題を身近な経験を通してアプローチすることができる。

**3. 学習の到達目標：**美的な考察の方法を会得して、現代現象に適用すること。社会学、批判理論、ジェンダー論を駆使、日常的な現象を学問的にアプローチすること。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1-3 団体的な議論、ブレインストーミング
- 4 小の美学
- 5 甘の美学
- 6 子供らしさの美学
- 7 カワイイとジェンダー論
- 8 カワイイと消費社会
- 9 カワイイとポストモダニズム
- 10 文献のまとめ
- 11～15 発表 (個人・団体)

**5. 成績評価方法：**発表、積極的な参加

**6. 教科書および参考書：**「かわいい」論 四方田 犬彦

「かわいい」の世界：ザ・パワー・オブ・キュート / サイモン・メイ著

**7. 授業時間外学習：**共通資料の執筆

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

無

**9. その他：**

無

科目名：美学・西洋美術史演習

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：足達 薫

コード：LB55406, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語および英語、その他の西洋言語

1. 授業題目：西洋美術研究（基本編）

2・授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。

3. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：ガイダンス（1）研究の目的とこれからの予定
- 2：ガイダンス 2）「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
- 3：発表と議論
- 4：発表と議論
- 5：発表と議論
- 6：発表と議論
- 7：発表と議論
- 8：発表と議論
- 9：発表と議論
- 10：発表と議論
- 11：発表と議論
- 12：発表と議論
- 13：発表と議論
- 14：発表と議論
- 15：発表と議論

（注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります）

5. 成績評価方法：発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

6. 教科書および参考書：読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。

7. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

該当する

9. その他：

科目名：美学・西洋美術史演習

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：足達 薫

コード：LB65409, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語および英語、その他の西洋言語

1. 授業題目：西洋美術研究（発展編）

2・授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。

3. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：ガイダンス（1）研究の目的とこれからの予定
- 2：ガイダンス 2）「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
- 3：発表と議論
- 4：発表と議論
- 5：発表と議論
- 6：発表と議論
- 7：発表と議論
- 8：発表と議論
- 9：発表と議論
- 10：発表と議論
- 11：発表と議論
- 12：発表と議論
- 13：発表と議論
- 14：発表と議論
- 15：発表と議論

（注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります）

5. 成績評価方法：発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

6. 教科書および参考書：読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。

7. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

該当する

9. その他：

**科目名：美学・西洋美術史実習**

**曜日・講時：**火曜3限、火曜4限

**セメスター：**5 **単位数：**2.00 単位

**担当教員：**足達 薫

**コード：**LB52307, **科目ナンバリング：**LHM-ART307J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**美術作品分析入門：構図から細部までをいかに観察し記述するか

**2・授業の目的と概要：**美術作品を視覚的に分析し、言語化するための手順と観点、およびインターネットおよび文献資料を通じて作品の画像資料および基本的データを収集する方法を習得する。

**3. 学習の到達目標：**美術作品の視覚的分析、資料調査、カタログ記述を自ら行う力を身につける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1：美術作品の視覚的分析ー目的と目標

2：客観的なことばを目指して

3：フォーマット

4：構図

5：空間

6：色彩

7：明暗

8：線

9：モデリング

10：人物像

12：見学会（場所、展覧会等は未定）

13：作品研究ポスターの制作（1）作品の選定

14：作品研究ポスターの制作（2）中間発表

15：作品研究ポスターの発表

（見学会の時期、集中講義の予定等により、内容の変更や休講がある場合があります）

**5. 成績評価方法：**出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。

**6. 教科書および参考書：**授業中に指示します。

**7. 授業時間外学習：**毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（ポスター作成）が必要となります。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
該当する。

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史実習**

**曜日・講時：**火曜 3 限、火曜 4 限

**セメスター：6 単位数：2.00 単位**

**担当教員：**足達 薫

**コード：**LB62304, **科目ナンバリング：**LHM-ART307J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**「空想の展覧会」の企画およびカタログ作成

**2・授業の目的と概要：**美術作品が有する視覚的特質を歴史および文化の中に位置づけ、作品の意義および価値を提示する能力を身につける。

前期に行うポスター作成をさらに拡大強化し、「空想の展覧会」（フランスの文学者・文化史家アンドレ・マルローの概念に起因する）を企画し、カタログを作成するまでの作業を行う。

**3. 学習の到達目標：**美術作品の歴史的・文化的価値を明確に記述し、魅力的なコンセプトに基づく展示プランを立ててカタログを制作することにより、美術館や博物館などでの実践のための基礎的能力を身につける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1: 「空想の展覧会」のコンセプト マルローから現代へ
- 2: 近代における美術作品の展示 礼拝価値から展示価値へ
- 3: 企画準備 1) コンセプト
- 4: 企画準備 2) 目玉作品
- 5: 企画準備 3) タイトルと章構成
- 6: 企画会議 プレゼンテーション
- 7: 作品選定 1
- 8: 作品選定 2
- 9: 作品選定 3
- 10: 中間発表
- 11: カタログ制作 1
- 12: カタログ制作 2
- 13: カタログ制作 3
- 14: カタログ制作 4
- 15: 最終発表

（註：状況に応じて、土日を利用した美術館見学も考えていますが現時点では未定です）

**5. 成績評価方法：**出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。

**6. 教科書および参考書：**授業中に指示します。

**7. 授業時間外学習：**毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（カタログ作成）が必要となります。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

該当する

**9. その他：**